



今年は例年になく冬の訪れが早いようですが、皆様いかがお過ごしですか。

内戦の続くソマリアは近隣諸国の協力のもと、ケニヤ・エルドレットで10月14日より2週間にわたり、代議員400人と部族のリーダー19人が出席し停戦に向けての話し合いが持たれ、27日休戦協定が結ばれました。

その休戦に向けての話し合いがもたれていた10月24日、皮肉にもIIDAのナンバー2スタリーンが、ケニヤ・ナイロビで強盗に襲われ銃殺されるというニュースが飛び込んできました。

IIDAの会長と元秘書には早速弔電を送りました。11月4日元秘書から「本当に悲しいことですが事実です」との返事がありました。スタリーンへの追悼をこめてソマリアニュースを作成しました。

スタリーン、ケニヤで殺害される

インターネットによる記事には、「スタリーン・アブディ・アラッシュ(45才)が、木曜日(24日)夕方、宿泊先の玄関で強盗に襲われ銃殺され、ハンドバッグと携帯電話を奪われた。」と書かれて折、COSV(イタリアのNGO)関係者は「スタリーンは、1993年からCOSVの職員となり首都モガデシュから75キロ南のメルカを中心に医療・教育プロジェクトや武装兵の武装解除活動に献身してきた。」「彼女は、ソマリアの人々への支援と平和実現のために尽力してきた仲間・素晴らしい女性です」と述べている。遺体は26日メルカで埋葬されるとのことでした。

彼女はIIDAの会長ハリマ女史の妹ですが、イタリアでOL生活をしていた1993年、姉の活動を助けるためにソマリアに戻ってきました。IIDAの広報担当として、またハリマ会長の代理として幅広く活動をしていました。

1997年後藤のソマリア訪問時、IIDAのモガデシュ地区の責任者として婦人自立の支援活動をしていましたが、モガデシュの治安悪化により彼女もメルカに移って来ました。

1998年のコミュニティセンター完成式には、病氣療養中のハリマ会長に代わってスタリーンが、IIDAの代表として私達を迎えてくれました。

2000年12月には、くしくも来日の機会を得、東京近郊の会員はスタリーンと交流することが出来ました。IIDAの中では特にわたし達と関係の深い女性でした。



<編集後記>

10月29日、インターネットでソマリアの記事を探していると、「ソマリア活動家ナイロビで殺害される」というタイトルが目飛び込んできました。恐る恐る記事の中身を見てみると、スタリーン殺害の記事でした。IIDAの次期会長と目された人物の死に衝撃を受け暫し言葉がありませんでした。しかも内戦中のソマリアではなく、比較的安全と思われるケニヤでの出来事でしたから。彼女の死は本当に残念ですが、彼女の犠牲は決して無に帰することはないと確信しています。弔電をIIDAとIIDA関係者に送りました。スタリーンの冥福を祈るとともに、IIDAがこの悲しみを乗り越えて更に活躍する事を願ってやみません。